

健康

とくしま医療最前線



くしゃみ、鼻つまりといったつらい症状に悩まされるスギ花粉症。近年、3～5年の中長期的アプローチで治療する「舌下免疫療法」が注目を集めている。根気強く薬を服用することで、8割以上の患者に改善傾向がみられるという。徳島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の北村嘉章講師に新しい治療法を聞いた。

(山口和也)



北村 嘉章
徳島大学病院
耳鼻咽喉科・
頭頸部外科講師

花粉症は、山林から増加を続け、今では飛散した花粉が鼻や目の粘膜に付着し、くしゃみ、鼻つまり、目のかゆみといったアレルギー症状を起こす病気だ。毎年、スギ花粉が空中を舞う2～4月に症状が現れるため「季節性アレルギー性鼻炎」とも言われる。患者は1960年代から

花粉症の舌下免疫療法

舌下免疫療法の特徴



- 1日1回服用。
- 治療開始時期は6～11月。
- 服用期間は3～5年。
- 対症療法の薬と併用できる。
- ダニアレルギー性鼻炎の薬は錠剤。

8割の患者に改善傾向

療法だ。医師の問診や鼻水の検査、皮膚テスト、血液検査により、患者のアレルゲンを特定した上で治療を始める。スギ花粉から作られた液体の薬を1日1回、舌の裏側に垂らして粘膜から吸収させる。薬の服用を根気強く続けることで、完治に近い状態になる患者もいるという。ただ、個人差があり、全く効かない患者もいる。花粉が飛散しない6月から11月にかけてが治療開始の時期だ。効果が現れるまで少なくとも3カ月かかるため、早めに開始した方がいい。

舌下免疫療法をめぐ

治療期間は3～5年

っては、15年にダニが原因のアレルギー性鼻炎に効く薬が発売された。錠剤タイプで、冷蔵保存が必要なスギ花粉用の液体タイプより利便性が高い。舌下免疫療法にも、口内炎や舌の下側の腫れ、のどのかゆみといった副作用がある。ただ、これまでに重大な副作用は起きておらず、安全性は高いとされる。北村講師は「治療期間が長いので、医師の説明をしっかりと受けてほしい」と話している。

徳島大学病院の問い合わせは、耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来(電話088(633)7166)。

12歳未満も治療対象に

錠剤タイプの薬

めると、より高い効果が望める」と話す。

現在は液体タイプに限られるスギ花粉用の舌下免疫療法に、近く錠剤タイプの薬が加わる予定だ。発売されれば、治療対象から外れていた12歳未満も服用できるようになる。スギ花粉症は低年齢化しており、早期の発売が期待される。

ダニアレルギー性鼻炎の治療薬も12歳以上が対象で、厚生労働省に小児適応を申請中だ。徳島大学病院の北村嘉章講師は「小さい頃から治療を始

現在、舌下免疫療法を行っている県内の医療機関はスギ花粉症が34カ所、ダニアレルギー性鼻炎は19カ所にとどまる。患者のニーズは高いことから、専門医の育成が課題になっている。